

# 学生一座が水戸黄門

## 桜美林大 地元の福祉施設を巡業

「この紋所が目に入らぬか!」——。演劇やダンス

を学ぶ桜美林大学（町田市常盤町）の学生たちが11日、町田市成瀬台の特別養護老人ホーム「ケアセンター成瀬」を訪れ、デイケアに通うお年寄りたちに「水戸黄門」の合唱寸劇を披露した。

同大の小劇場「プルヌスホール」（相模原市中央区淵野辺）が進める芸術普及活動の一環で、2005年から地元の町田市と相模原市の福祉施設などをまわって好評を博している。10月には茨城県、来年2、3月には和歌山県に「出張」する予定。

今年は、演出や舞台裏も含めて、同大芸術文化学群の20人が参加。引き継がれてきたオリジナルの寸劇に手を加え、コメディータッチに仕上げた。

「人生楽ありゃ、苦もあるさ」。観客もいっしょにテーマソングを歌う中、黄門様が登場し、殺陣あり、歌あり、ダンスありの1時間。黄門様ご一行が悪い殿

様を懲らしめると、拍手が送られた。

演出を担当した同大3年、中島悠子さん(20)は、

「舞台と客席に分かれる劇場とは違い、人と人との触れ合いをじかに感じられる」と話していた。



コメディータッチの「水戸黄門」を演じる学生たち（11日、ケアセンター成瀬で）